

ナバナ

Nabana

ナバナは、早春の菜の花より一足先に咲くように改良された品種で、若い茎葉とともに花蕾を摘み取って使います。開花してからは収穫遅れなので注意しましょう。

栽培のポイント

① 作付け条件の注意

寒さには強いですが、日当たりを好む野菜です。連作障害を避けるために、アブラナ科作物の栽培後は避けて、堆肥や油かすなどの有機質肥料を元肥に施します。

② 肥料切れに注意しましょう

直播きの場合は本葉5〜6枚、ポット植えの場合は草丈10cmの頃に1回目の追肥をします。2回目以降は、半月に1回程度の間隔で、収穫期間中も肥料切れに注意します。

③ 株間を広めに取りましょう

つぼみの付いた芽先を摘むと、下方のわき芽が伸びて株が大きく広がります。最初の頃は密に植えて、少し収穫してから間引いて株間を広げてみましょう。

品種例

秋華(早生)、冬華・CR花かんざし(中生)

和え物やおひたし、パスタなど幅広く使えて、季節感のある野菜です。早春の味をぜひ楽しんでください。



しろう営農生活センター
営農指導員
福居 基晴



栽培カレンダー



いまさら聞けない農作業のコツ!

減農薬の工夫

正しく農薬を使うことで、安全で効果的に病気や害虫を防げます。家庭菜園では、少量の薬剤を何種類も準備するのは大変ですが、少しの工夫で農薬の使用回数を減らすことができます。

●まずは土作り

健康な植物は、病気にもかかりにくいものです。完熟堆肥や石灰資材を投入して、作物が健全に育つ土台を作りましょう。

●病害虫を寄せ付けない

●マルチング
泥のはね返りや雑草の繁茂を防ぐ。

■防虫ネット

アブラムシやコナガの侵入を防ぐ。

■反射テープ

光の反射でアブラムシを寄せ付けない。

■コンパニオンプランツ

野菜やハーブなどを隣り合わせて育てることで、病害虫の被害を少なくする。

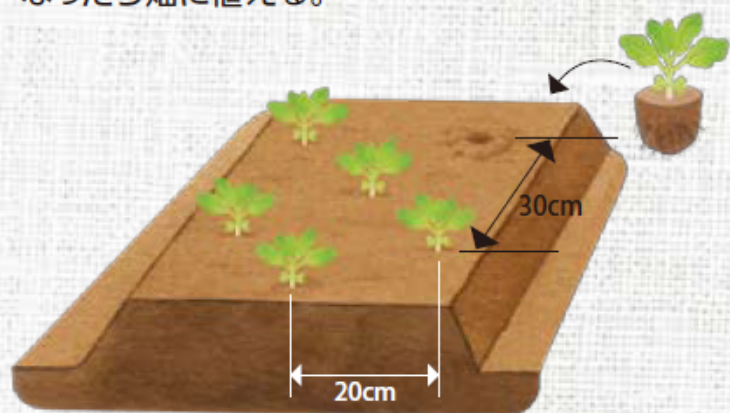
(例)

キャベツとミント類、トマトとマリーゴールドなど



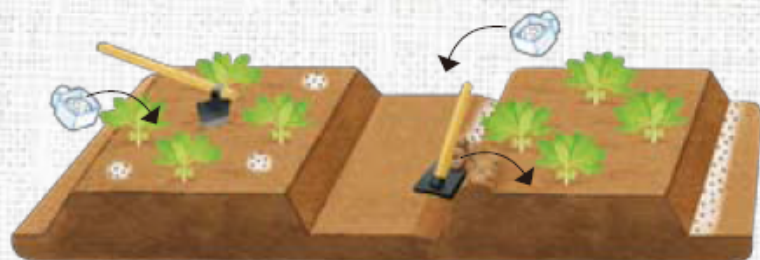
3 植え付け

- 本葉4~5枚でセルトレイから引き抜けるようになったら畑に植える。



4 追肥

- 草丈10cmの頃、株間のところどころに化成肥料小さじ1杯(1株当たり)をばらまき、土に混ぜ込む。
- 半月に1度、化成肥料を小さじ1杯(1株当たり)、畝の両側にばらまき畝に寄せ上げる。

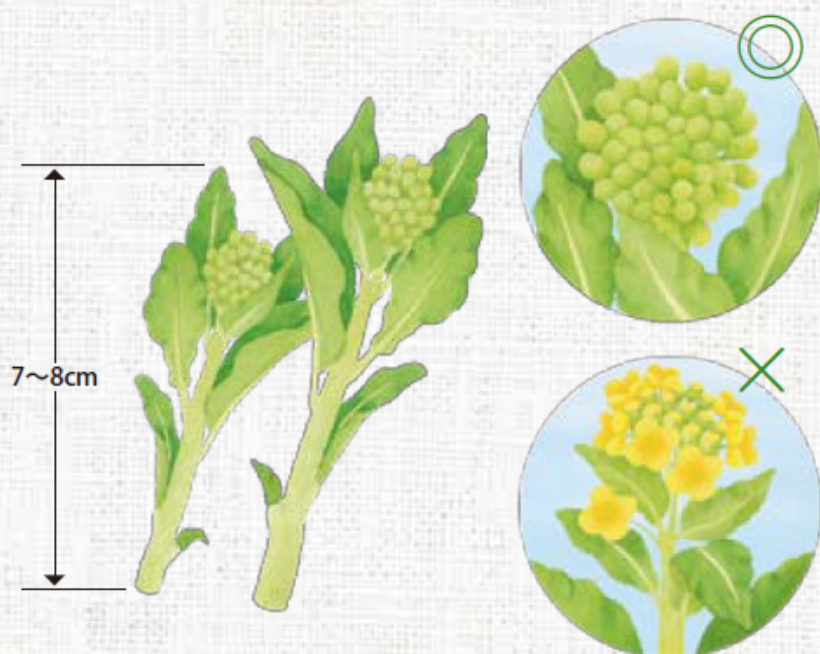


第1回

第2回

5 収穫

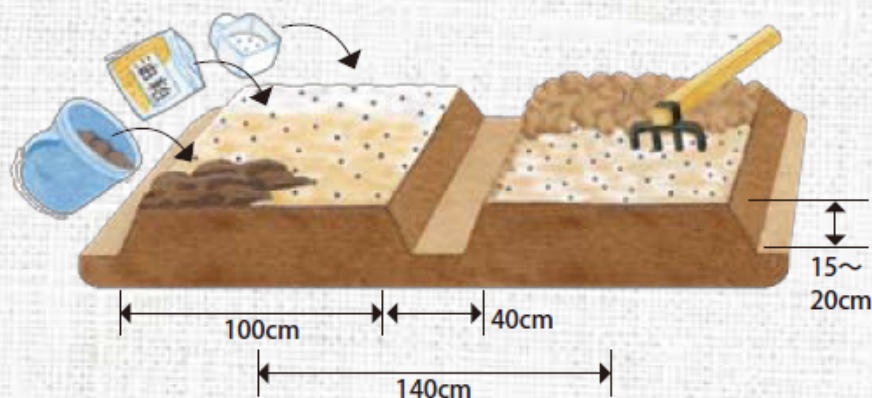
- 花蕾が大きく膨らみ開花直前になったら茎葉をつけて摘み取る。
- 早どりせず、花蕾が大きく膨らむまで待つて収穫する。開花してからは収穫遅れなので注意。



1 元肥入れ

- 予定の畑にはできるだけ早めに全面に石灰をまいて耕しておく。
- 化成肥料、油粕、堆肥を施してよく耕しておく。

1㎡当たり
化成肥料大さじ4杯
油粕大さじ5杯
堆肥5~6握り



2 苗づくり

- 128穴のセルトレイを使い、1穴に4~5粒まく。
- 育つにつれて間引き、本葉2枚のころ1本立てにし、本葉4~5枚の苗に仕上げる。

